

グローバル・コモンズ（サイバー空間、宇宙、北極海） における日米同盟の新しい課題

平成26年3月



公益財団法人日本国際問題研究所
The Japan Institute of International Affairs

はしがき

本報告書は、当研究所の平成 25 年度外務省外交・安全保障調査研究事業（調査研究事業）「グローバル・コモنز（サイバー空間、宇宙、北極海）における日米同盟の新しい課題」の成果として取りまとめたものです。

本プロジェクトは、サイバー空間、宇宙、北極海という世界各国に共通する課題（グローバル・コモنز）の現状を分析し、これら「コモنز」の安全を確保するための日米同盟・日米連携のあり方、また日本が産・官・学をあわせた総合的な強み（経済力、技術力、外交・国際的な影響力、自衛隊の能力等）を生かしながら果たすべき役割等を検討し、とるべき施策を提言しています。

安全保障空間は、技術革新や国際社会の構造変化により、大きな変容を遂げつつあります。サイバー空間は、今や経済活動と軍事オペレーションの双方にとって不可欠の領域である一方で、国家及び犯罪グループによる攻撃の脅威にさらされています。また、宇宙空間は、米ソ冷戦時代は2つの超大国が軍事利用を独占していましたが、近年では台頭著しい中国がこれにチャレンジする状況に至っています。さらに、近年における地球温暖化の進行は、従来「未到の海域」であった北極海を経済および軍事の両面にわたる現実の活動領域としつつあります。これらの空間は、世界の平和と繁栄のために必要不可欠な公共圏である「グローバル・コモنز」としての重要性を増してきており、これら領域の安全を確保し、脅威を防ぎ、国際的なガバナンスを確立することがますます喫緊の課題となってきたという点で、共通する性格を有しています。

日米の同盟関係は過去 50 年以上の長きにわたって日本の安全、世界の平和と安定の確保に貢献してきましたが、上記のような戦略環境の変化に伴い、新たな課題に直面しています。「グローバル・コモنز」の安全を確保し、世界の繁栄に貢献することは、日米共通の責務であると共に、世界において日本が積極的に役割を果たすべき課題でもあります。

なお、ここに表明されている見解はすべて参加された各研究者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。しかし、個々の研究成果が今後の日本外交を巡る議論に資することを心より期待するものであります。

最後に、本研究に積極的に取り組まれ、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、ならびにその過程でご協力いただいた関係各位に対し改めて深甚なる謝意を表します。

平成 26 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 野上 義二

研究体制

主査：	星野 俊也	大阪大学国際公共政策研究科科長・教授
委員：	池島 大策	早稲田大学国際教養学部教授
	金田 秀昭	日本国際問題研究所客員研究員
	川口 貴久	東京海上日動コンサルティング株式会社主任研究員
	鈴木 一人	北海道大学大学院法学研究科教授
	土屋 大洋	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
	福島 康仁	防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室教官
	委員兼幹事：	飯島 俊郎
	秋山 信将	一橋大学大学院法学研究科教授 日本国際問題研究所客員研究員
	松本 明日香	日本国際問題研究所研究員
担当助手：	松井 菜海	日本国際問題研究所研究助手

(敬称略、五十音順)

目 次

第1章 総論：グローバル・コモンズにおける安全保障ガバナンスのあり方 と日米同盟の課題－サイバー空間、宇宙、北極海を中心として－	星野 俊也 …………… 1
第2章 サイバー空間における安全保障の現状と課題 －サイバー空間の抑止力と日米同盟－	川口 貴久 ……………11
第3章 サイバースペースのガバナンス	土屋 大洋 ……………27
第4章 宇宙利用をめぐる安全保障 －脅威の顕在化と日米の対応－	福島 康仁 ……………43
第5章 グローバル・コモンズとしての宇宙におけるガバナンス構築と日米同盟	鈴木 一人 ……………53
第6章 北極海と日米同盟	金田 秀昭 ……………65
第7章 グローバル・コモンズとしての北極海に相応しい安全保障	池島 大策 ……………77
第8章 政策提言	秋山 信将・松本 明日香 ……………91